

国立国語研究所学術情報リポジトリ

On Mochiron 'of course'

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 圭子, 東泉, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002561

「勿論」考

高橋 圭子 (明治大学)

東泉 裕子 (明治大学)

On *Mochiron* ‘of course’

Keiko Takahashi (Meiji University)

Yuko Higashiizumi (Meiji University)

要旨

現代語の「もちろん」は「論ずる(こと)勿(なか)れ」という禁止表現から発生したと説明されることがある。近代以前のデータベースを検索すると、古代の六国史に代表される漢文体の文献では、「勿論」の用例は「論ずる(こと)勿れ/勿(な)し」という意味であり、否定辞「勿」と動詞「論」から構成される句であった。現代語とほぼ同様の意味の「勿論」の語の用例は、中世の古記録や『愚管抄』『沙石集』など和漢混交文体による仏教関連の文献から見られるようになる。用法は文末における名詞述語が主であった。近世には、ジャンルも文体も多様な文献に用いられ、文中や文頭における副詞用法や応答詞的用法も出現する。古代の禁止表現と中世以降の「勿論」の関連は不明だが、日本語のみならず中国語・韓国語においても漢字語「勿論」の研究が進められ、さまざまな知見が見出されている。通言語的な議論の深化が期待される。

1. はじめに

現代日本語における「もちろん」という語について、主な中型国語辞典は (1)のように記述している¹。

- (1) a. もちろん【勿論】(副)いうまでもなく。むろん。源平盛衰記 10「皇子の御誕生勿論の御事なり」「勿論私が行きます」 『広辞苑 第七版』
- b. もちろん【勿論】[副] 論じる必要のないほど、はっきりしているさま。言うまでもなく。無論。「勿論出席します」「酒は勿論のこと、タバコもいけない」 『デジタル大辞泉』
- c. もちろん [2] 【勿▼論】(副) [「論ずる勿(なか)れ」の意から] 議論をするまでもなく、すでに結論は決まっているという気持ちを表す。言うまでもなく。むろん。「勿論出かける」「英語は勿論のことフランス語もできる」 『Weblio 大辞林』

(1)に見るように、現代語の「もちろん」は副詞に分類され、「勿論」という漢字表記があげられている。(1c)のように漢文の禁止表現に由来すると記述するものもある。ただし、「勿論」という文字列の禁止表現から現代語の「もちろん」への変遷をたどった研究は、管見ではまだない。

また、現代語の「もちろん」には、(2)のような用法がある。例は、『現代日本語書き言葉

¹ 引用は、表記など改めた箇所がある。下線も発表者によるものである。以下同じ。

均衡コーパス(The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)』(コーパス検索アプリケーション『中納言』)のものである。

- (2) a. 彼の人柄の魅力がこの論理に説得力を加えたのはもちろんである。
 【出典】BCCWJ サンプル ID : PB12_00149 中野利子(著)
 『外交官 E・H・ノーマン：その栄光と屈辱の日々1909-1957』2001年
- b. これはもちろん、あくまでもその場の相手の対応との関係に必要な、必要かつ最小限の力を加えるということだというふうに考えます。
 【出典】BCCWJ サンプル ID : OM61_00004 第156回国会 2003年
- c. 当日の放送は歌はモチロン、おしゃべりでも盛り上がりそうな気配。
 【出典】BCCWJ サンプル ID : OY04_04025 Yahoo!ブログ 2008年
 著名な医者、芸術家、作家、科学者などはもちろんのこと、技術者や級を持っている労働者、はては模範的な仕事ぶりのくみとり人夫(下肥えは農家にとって非常に貴重なものだった)までが攻撃の対象になった。
 【出典】BCCWJ サンプル ID : OB4X_00091 張戎(著) 土屋京子(訳)
 『ワイルド・スワン』1993年
- d. もちろん自衛隊は海外で戦うことを許されない軍隊であり、兵力としても決して十分であるとはいえない。しかしアメリカの同盟国であるフランスやドイツがイラクに兵を派遣しないという政策を頑固にとり続けているかぎり、日本の自衛隊は少なくとも精神的にはアメリカにとって頼もしい味方であるにちがいない。
 【出典】BCCWJ サンプル ID : PN4f_00002
 『中日新聞』夕刊 2004年11月15日
- e. 「すると、わたしとお母さんがふたりでインドネシアへ遊びに行くことも許されるわけ？」「もちろん」
 【出典】BCCWJ サンプル ID : LBg9_00215 笹倉明(著)
 『につぼん国恋愛事件』1992年

ここでは仮に、(2a)名詞述語、(2b)副詞、(2c)尺度含意、(2d)譲歩、(2e)応答詞的用法と名付ける²。これらの用法は、いつ頃、どのように出現したのであろうか。

本発表では、「勿論」「もちろん」の用例をたどり、現代語に至る過程の一端を探ることを試みる。

2. 先行研究

2.1 国語・漢和辞典における「もちろん」

『日本国語辞典第二版』における「もちろん【勿論】」の記述を(3)に抜粋する。

² 渡辺(1971, pp. 301-340)は、(2b)のような副詞を「誘導副詞」と呼び、表現主体の注釈内容を表示している。工藤(2016)は、陳述副詞を「叙法副詞」「取り立て副詞」「評価副詞」に分け、「もちろん」を「叙法副詞」(pp. 12-13)としている。「叙法副詞」とは「文の叙法性に関わりをもつ副詞」(p. 11)であり、「叙法性」とは「話し手の立場からする、文の叙述内容と現実および聞き手との関係づけの文法的表現」(p. 8)のことである。なお、(2c)や(2d)のような用法は、本発表では(2b)のような副詞用法とは別に考える。

- (3) a. [名] (議論の余地がないの意。多く副詞的に用いる)言うまでもなく自明であること。無論。
 *名語記〔1275〕九「この義、勿論なるべし」
 *延慶本平家物語〔1309～10〕「山門の御訴訟、理運之条、勿論に候」
 *ロドリゲス日本大文典〔1604～08〕「Mochiron (モチロン)、すなわち、ロンズル コト ナカレ」
 *ロザリオの経〔1623〕「シガイヲ ハウムル マデワ ソノ ラツソク タエズ mochiron (モチロン) ヒモ キエザリシナリ」
 *洒落本・北華通情〔1794〕『『貴公見たか』『もちろん見升た』』
- b. [副] 程度のはなはだしいさまを表わす語。大いに。大変。たくさん。
 *滑稽本・通者茶話太郎〔1795〕二「一向えらい妙妙妙、勿論古雅でどうもいへぬ」
- c. 辞書 文明・天正・饅頭・黒本・易林・日葡・書言・ヘボン・言海
 表記 【勿論】文明・天正・饅頭・黒本・易林・書言・ヘボン・言海
 『日本国語辞典第二版』

(3a)によれば、「もちろん」という語の13-14世紀の用例は名詞述語用法である。そして、17-18世紀には「もちろん」単独の副詞用法が出現している。

なお、(3b)の意味は(1)の記述にはなく、現代語の「もちろん」では用いられなくなっている。ただし、4.2節で見ると、これに近い意味の用例が13世紀にある。

また、(3c)によれば、古辞書には文明本(1474)以降の『節用集』に載るとある³。

次に、主な漢和辞典における記述を(4)に抜粋する。なお、(4b)・(4c)の[国]は、日本における意味を示している⁴。

- (4) a. 【勿論】モチロン 論ずるまでもなく。いふまでもなく。もとより。無論。
 (延慶本平家物語、一、本、山門衆徒内裏へ神輿振奉事) 山門の御訴訟、理運之条、勿論に候。 『大漢和辞典』
- b. 【勿論】もちろん [国]いうまでもなく。むろん。もとより。
 『新選漢和辞典 web 版』
- c. 【勿論】もちろん [国]もとより。むろん。 『角川 大字源』
- d. 【勿論】ふつろん 追究するな。 『字通』

以上をまとめると、現代語の「もちろん」は13世紀頃、和製漢語として用いられ始めたかと推測される。「論ずる(こと)勿れ」という禁止表現との関連は不明である。

2.2 日本・中国・韓国語における「勿論」

日本語における「もちろん」については、Shibasaki (2019a)、Higashiizumi and Takahashi (2019)などにより、文末における名詞述語から文頭における副詞ないし語用論的標識

³ 『伊呂波字類抄』(鎌倉初期)には、「モ」の項に「勿論」が載る。ただし、全体の読みは不明である。渡辺(1966, p. 344)によれば、明応五年本『節用集』(1496 奥書)は「モツロン」の読みを挙げている。

⁴ (4d)は読みや意味が他の漢和辞典とは異なり、用例もないため、現時点では保留とする。

(pragmatic marker)への用法拡張が取り上げられている⁵。

中国語については⁶、王(2013)、程(2014)、Zhu and Horie(2018)、朱(2019)などにより、「勿論・無論・毋論・莫道・別説」など<否定辞+SAY 動詞>という構成を持つ句の用法拡張が歴史的に論じられている。中国語においては、「勿論・無論・毋論」は同音 *wulun* であり、現代では主に「無論」が「～を問わず、～にかかわらず、～ても(結果は変わらない)」という譲歩条件文で用いられるという⁷。

韓国語については、Park(2019)が漢字語「*mwullon*(勿論)」の歴史を精査している。Park(2019)によれば、15–20 世紀には中国語と同様の譲歩条件文の使用が多数を占めているが、20 世紀には日本語と同様の「言うまでもなく」の意の副詞用法が出現し、これが21 世紀には用例の多数を占め、応答詞的用法も出現している。こうした20 世紀以降の現象は日本語との接触の影響によるかと推測されるという。

先行諸研究からは、漢字語「勿論」は日中韓で共通点や相違点を見せながら複雑かつ興味深い様相を呈していることが窺われる。本発表では、日本語の「勿論／もちろん」の歴史の一端を掘り下げることを目指す。

3. リサーチ・クエスチョンと調査方法

本発表におけるリサーチ・クエスチョン(RQ)は次のとおりである。

RQ1: 「勿論」という文字列は、歴史的にどのような意味で用いられているのか。

RQ2: 現代日本語における「もちろん」の諸用法は、いつ頃、どのような環境で出現したのか。

調査に用いるデータベースを(5)にまとめる。

- (5) a. 日本文学電子図書館「六国史」
- b. 国際日本文化研究センター「撰関期古記録データベース」
- c. 東京大学史料編纂所「古記録フルテキストデータベース」
- d. 国文学研究資料館「岩波日本古典文学大系本文データベース」

(5a)の「六国史(りっこくし)」とは古代における官撰史書の総称であり、(5b)・(5c)の「古記録」とは貴族や武家の日記類である。いずれも漢文だが、日本風にアレンジされた「変体漢文」と呼ばれる文体で書かれている。(5d)には、古代から近世に至る文学作品が収められ、文体も漢文・和文・和漢混交文など多様である⁸。これらのデータベースにより、古代から近世に至る漢文体の中の「勿論」の用例を収集、検討する。

以下、本発表ではこれらのデータベースをそれぞれ、「六国史 DB」、「撰関期 DB」、「古記録 DB」、「大系 DB」と略称する。また、時代区分については通説に従い、概ね次のように

⁵ Shibasaki (2018, 2019a, 2019b)は、このような現象は「勿論」のみならず「事実」「道理」などの漢語名詞に共通してみられると指摘している。

⁶ 本稿においては便宜上、日本語における漢字を用いて表記する。以下同じ。

⁷ 楊文江氏(中国・南開大学)による。記して感謝申し上げます。

⁸ (5d)は、1957–1967年に2期にわたって岩波書店から刊行された、全100巻の「日本古典文学大系」(通称: 旧大系・赤大系)の本文をデータベース化したものである。なお、1989–2005年に岩波書店から「新編日本古典文学大系」(通称: 新大系・青大系)全100巻も刊行されているが、このデータベースはまだない。

とらえることとする。

古代：奈良～平安時代 おおよそ 8-11 世紀
 中世：院政期～室町時代 おおよそ 12-15 世紀
 近世：安土桃山～江戸時代 おおよそ 16-19 世紀半ば頃

4. データベースにおける「勿論」の用例

4.1 六国史・古記録における「勿論」

まず、「六国史 DB」における「勿論」という文字列の検索結果を表 1 にまとめる。また、(6)に「勿論」の用例の原文および訓読文をまとめる。

表 1 六国史における「勿論」の用例数

書名	収録年代	成立	用例数
日本書紀	神代-697	720	1
続日本紀	697-791	797	4
日本後紀	792-833	840	1
続日本後紀	833-850	869	0
日本文徳天皇実録	850-858	879	0
日本三代実録	858-887	901	0

- (6) a. 乃喟然而歎曰、懿哉、馬飼首。汝若無遣使來告、殆取蚩於天下。世云、勿論貴賤。但重其心、蓋荒籠之謂乎。

【出典】六国史 DB『日本書紀』繼體天皇元年(507)正月六日条
 乃ち喟然歎きて曰はく、「懿きかな、馬飼首。汝若し使を遣して來り告すこと無からましかば、殆に天下に蚩はれなまし。世の云はく、『貴賤を論(あげつら)ふこと勿れ。但其の心をのみ重みすべし』といふは、蓋し荒籠を謂ふか」とのたまふ。
 (坂本他 1965, p.20)

- b. 制。銓衡人物。黜陟優劣。式部之任。務重他省。宜論勲績之日。無式部長官者。其事勿論焉。 【出典】六国史 DB『続日本紀』和銅六年(713)四月廿五日条
 制すらく、「人物を銓衡し、優劣を黜陟するは、式部の任なり。務、他の省より重し。勲績を論する日に、式部長官无くは、その事論すること勿かるべし」といふ。
 (青木他 1989, p.197)

- c. 其有遇父母・夫喪。期年以内修行。勿論。

【出典】六国史 DB『続日本紀』天平三年(730)八月七日条
 その父母・夫の喪に遇ふこと有りて、期年以内修行するは、論ふこと勿れ。
 (青木他 1990, p.249)

- d. 縦当死罪。咸原而勿論。

【出典】六国史 DB『続日本紀』天平十六年(744)九月廿六日条
 縦ひ死罪に当るとも咸原して論ふこと勿れ。
 (青木他 1990, p.445)

- e. 其国郡官司、雖犯謀反・大逆。常赦所不免。咸悉除免、一切勿論。

【出典】六国史 DB『続日本紀』天平十六年(744)九月廿七日条

その国郡の官司、謀反・大逆。常赦の免さぬを犯すと雖も、咸悉く除免して一切に論ふこと勿れ。(青木他 1990, p.447)

- f. 其守従五位上藤原朝臣鷹養。大目正六位上上村主乎加豆良。以身卒死。勿論其罪。**【出典】**六国史 DB『日本後紀』弘仁六年(815)二月九日条 其の守従五位上藤原朝臣鷹養・大目正六位上上村主乎加豆良、身卒死するを以て、其の罪を論ずること勿し。(黒板・森田 2003, p.697)

六国史の後、官撰史書は編纂されていない。そこで、六国史の後の漢文体文書として、古記録における「勿論」の用例を調査する。

「撰関期 DB」は訓読文のデータベースであり、直接「勿論」の文字列検索はできない。そこで、「勿」「論」の and 検索を行ったところ、ヒットしたのは(7)の1件であった。

- (7) 予、云はく、「令文のごとくんば、御画日と謂ふは、即ち年月有り。仍りて只、日の字を書くべきか。見る所、一往、此くのごとし。但し指せる文に至りては、論勿し」と。**【出典】**撰関期 DB 藤原行成(著)『権記』寛弘八年(1011)十月十九日条

「古記録 DB」における「勿論」の文字列の検索結果は計 928 例であった。その内訳は表 2 のとおりである。また、「古記録 DB」における「勿論」の主な用例を(8)に挙げる。

表 2 「古記録 DB」における「勿論」の用例数

時代	書名	記主	用例年	用例数
古代	小右記	藤原実資	1019	1
中世	愚昧記	三条実房	1170-77	4
	仙洞御移徙部類記	(複数記録からの抜書)	1198-1230	5
	猪隈関白記	近衛家実	1202	1
	民経記	藤原経光	1226-67	104
	経俊卿記	吉田経俊	1238-69	23
	御産部類記	(複数記録からの抜書)	1247	1
	岡屋関白記	近衛兼経	1249-50	2
	深心院関白記	藤原基平	1261	1
	実躬卿記	藤原実躬	1289-1302	17
	後愚昧記	三条 公忠	1361-83	170
	後深心院関白記	近衛道嗣	1362-83	12
	実冬公記	三条実冬	1375-95	3
	看聞日記	伏見宮貞成親王	1416-43	107
	薩戒記	中山定親	1419-41	105
建内記	万里小路時房	1428-52	233	
中近世	九条家歴世記録	(九条家歴代)	1262-1623	33
近世	上井覚兼日記	上井覚兼	1574-86	58
	広橋兼胤公武御用日記	広橋兼胤	1758-63	48

- (8) a. 新宰相来、相逢之間早致拝礼、引座清談次云、昨日申撰政、報命云、至汝申
勿論、唯可申入道殿者、仍馳参申事由、已有許容、
 【出典】古記録 DB『小右記』寛仁三年(1019)十二月二十二日条
- b. 御消息到来云、不可依甚雨之由有院仰、勿論也勿論也、早可令光臨給也、
 【出典】古記録 DB『愚昧記』嘉応二年(1170)四月十六日条
- c. 御出仕有無之沙汰勿論候、
 【出典】古記録 DB『仙洞御移徙部類記』承元三年(1209)十二月二十一日条
- d. 有勘發之氣、於事有若亡勿論事也、
 【出典】古記録 DB『仙洞御移徙部類記』寛喜二年(1230)八月二十一日条
- e. 旨案進覽之、勿論事候、
 【出典】古記録 DB『民経記』天福元年(1233)四月某日条
- f. 諸卿一同可微唯歎事、《答云、》勿論可然、
 【出典】古記録 DB『民経記』仁治三年(1242)三月四日条
- g. 此御返事、関白殿へにて候へは、勿論其通に相応之可為御請候、乍去、羽柴
 事は
 【出典】古記録 DB『上井覚兼日記』天正十四年(1586)一月二十三日条
- h. 竹内式部堂上之門弟、当時現存之人ハ勿論、絶門之人・死去之人迄も
 【出典】古記録 DB『広橋兼胤公武御用日記』宝暦八年(1758)七月廿二日条

「古記録 DB」における「勿論」の用法は、(8b)・(8c)のような「勿論也」「勿論候」という名詞述語用法が多くを占める⁹。(8d)・(8e)は厳密には連体修飾用法だが、名詞述語を構成するという点において広義の名詞述語用法とも見なせよう。ただし、(8f)のような副詞用法の例も中世にすでに見出される。(8f)は今回の調査で見出された文頭における副詞用法の最も早い例であり、応答詞的用法の先駆的例でもあると考えられる。

また、近世には(8g)のような譲歩用法、(8h)のような尺度含意用法も少なからず見られるようになる。

4.2 「大系 DB」における「勿論」の用例

「大系 DB」からは、計 108 の用例が見出された¹⁰。表 3 は、その内訳をまとめたものである。中世には和漢混交文の仏教関連の書物で用いられているが、17 世紀以降の近世はジャンルや文体を問わず幅広く用いられていることが見てとれる。

⁹ (8a)は「古記録 DB」最古の「勿論」の例であるが、読みや意味が確定できないので、現時点では保留とする。

¹⁰ 検索した文字列は、「勿論」「もちろん」「モチロン」「もち論」である。このうち、「もちろん」「モチロン」の検索結果は同じであった。「もち論」の例はなかった。

表3 「大系DB」における「勿論」の用例数

時代	書名	ジャンル	作者	成立年代	用例数
古代	日本書紀	歴史書	舎人親王他	720	1
中世	愚管抄	歴史書	慈円	1220	4
	正法眼蔵随聞記	法語集	懷奘	1238	1
	立正安国論	仏教書	日蓮	1260	1
	沙石集	仏教説話集	無住	1283	5
	平家物語	軍記物語	不詳	13世紀	1
	徒然草	随筆	兼好	1330	1
	太平記	軍記物語	不詳	1370	4
	義経記	軍記物語	不詳	14世紀	1
近世	猫のさうし	御伽草子	不詳	1602	1
	犬枕	仮名草子	不詳	1606	1
	名取川	俳句	松江重頼	1680	1
	新色五卷書	浮世草子	西沢一風	1698	1
	松の葉	歌謡書	秀松軒	1703	2
	去来抄	俳論	向井去来	1702-04	1
	けいせい反魂香	浄瑠璃	近松門左衛門	1708	1
	傾城禁短気	浮世草子	江島其蹟	1711	1
	折たく柴の記	随筆	新井白石	1716	6
	平家女護嶋	浄瑠璃	近松門左衛門	1719	1
	心中宵庚申	浄瑠璃	近松門左衛門	1722	1
	ひとりね	随筆	柳沢淇園	1724	6
	槐記	随筆	山科道安	1724-35	7
	根南志具佐	滑稽本	風来山人(平賀源内)	1763	1
	孔雀楼筆記	随筆	清田儋叟	1768	4
	役者論語	歌舞伎論	三世八文字屋自笑編	1776	4
	遊子方言	洒落本	田舎老人多田翁	1770	3
	軽井茶話道中粹語録	洒落本	山手馬鹿人(大田南畝)	1781	3
	玉くしげ	国学書	本居宣長	1787	1
	鶉衣	俳文	横井也有	1788	3
	假名手本忠臣蔵他	浄瑠璃	竹田出雲他	18世紀	10
	江戸生艶気権焼他	黄表紙	山東京伝他	18世紀	4
	詩学逢原他	漢詩文	祇園南海他	18世紀	5
	お染久松色読販他	歌舞伎	四世鶴屋南北他	18-19世紀	5
	椿説弓張月	読本	曲亭馬琴	1807-11	2
	東海道中膝栗毛	滑稽本	十返舎一九	1802-14	5
	浮世風呂	滑稽本	式亭三馬	1809-13	7
	春色梅兒譽美	人情本	為永春水	1832-33	2

(9)に、中世の13世紀の用例とその現代語訳を挙げる。古代の『日本書紀』の用例は3.1節で見たように禁止の意味だが、(9)の用例に禁止はない。

(9a)・(9b)・(9h)は、「論外だ」「言うまでもないほどひどい」という否定的な程度の甚だしさを表している。これらは(3b)に通じる例である。(9)の用例中この3例以外はすべて、現代語と同様の、(1)や(2a)の意味である。

また、13世紀の用例は(9c)・(9d)・(9f)・(9g)・(9j)に見られるような「勿論也」「勿論(に)候」という名詞述語用法が中心である。

- (9) a. 陽成院御物氣強、於事勿論御事也。 【出典】大系 DB『愚管抄』
おやりになる事が論外のひどい事である。 (岡見他 1967, p.85)
- b. 横死之様、可謂勿論。 【出典】大系 DB『愚管抄』
普通でない死に方をしたのはあきれた事である。 (岡見他 1967, p.116)
- c. サレバソノヤウハ勿論也。 【出典】大系 DB『愚管抄』
武士の現在のありかたは異論がない。 (岡見他 1967, p.341)
- d. 昔ハ諸大夫ナニカト器量アル士ヲバサタナカリキ。サヤウノコロハ勿論也。 【出典】大系 DB『愚管抄』
器量あるものは諸大夫にならなかった昔、諸大夫が大納言にならなかったのは当然。 (岡見他 1967, p.352)
- e. 學人ハ必シモ可死可思。道理ハ勿論ナレドモ、 【出典】大系 DB『正法眼藏隨聞記』二ノ十八
修行者は、必ず、自己の死ななくてはならぬことを考えるべきだ。死すべき道理は無論確實であるが、 (神田他 1995, p.384)
- f. 此の詞勿論なり、其の文顯然なり。 【出典】大系 DB『立正安国論』
- g. 見解ノ僻タル事勿論也。 【出典】大系 DB『沙石集』卷五(六)
もちろん、邪見である。 (小島 2001, p.240)
- h. 中々ニ勿論ニテ、 【出典】大系 DB『沙石集』卷八(九)
とやかく論ずる必要のないほど馬鹿げたこと (渡辺 1966, p.344)
- i. 勿論ニ覺テヲカシケレドモ、末代ニハ、妻モタヌ上人、年ヲ逐テ希ニコソ聞シ。 【出典】大系 DB『沙石集』拾遺(二九)
当然のことに思えて滑稽だが、末世には、妻を持たない聖は段々少なくなり、 (小島 2001, p.188)
- j. 今度山門の御訴訟、理運の条勿論に候。 【出典】大系 DB『平家物語』卷一
今度の山門のご訴訟は道理にかなっている事はもちろんです。(市古 1994, p.85)

(10)は、名詞述語以外の用法の「大系 DB」における例を、出現順にまとめたものである。(10a)は副詞、(10b)は尺度含意、(10c)は譲歩、(10d)は応答詞的用法である。また、(10a)は文中、(10c)は文頭における用例の「大系 DB」での初出である。近世に入り、用法も文における位置も多様化してきたことが窺える。

- (10) a. 良い氣質なる物(略)主・親方の事は勿論人譏らず 【出典】大系 DB『仮名草子集 犬枕』
- b. 壹人楽しむ閨の錢箱。枕外れて夢結ぶ内。盗人に出合い。錢箱は勿論着替まで

盗られ。目覺めて僉議するに壹つも埒の明ぬ事なり。

【出典】大系 DB『浮世草子集 新色五卷書』

- c. 來曰く「若し情有らば、如此にも作せんか」と、今の句に直せり。勿論、句勝れずといへども本意を失ふ事はあらず。 【出典】大系 DB『俳論集 去来抄』
- d. さ：マア夫ならそれにしてお置なさりまし。そして女郎衆はとしま衆かへ。
伊：もちろんもちろん。 【出典】大系 DB『洒落本 軽井茶話道中粹語録』

5. おわりに

本稿では、近代以前のデータベースの「勿論／もちろん」の用例に基づき、(11)の3点を指摘した。

- (11) a. 古代の漢文体の文書においては、否定辞「勿」と動詞「論」から構成される句であり、禁止または否定の意で用いられている。
- b. 現代語における「もちろん」と同じ意味の用例は中世頃から見られる。この時期は文末ないし節末における名詞述語用法が中心である。
- c. 近世に入り、現代語と同様の多様な用法が見られるようになる。位置も、文中や文頭へと多様化する。

ただし、(11a)と(11b)の関連は不明であり、さらなる調査が必要である。今後の課題としたい。

また、日本語における「勿論」の意味や用法の歴史的変化は、中国語や韓国語の漢字語「勿論／無論」と共通する点もあれば、それぞれ独自の点もあり、多様で複雑な様相を呈している。通言語的な議論の深化が期待される。

謝 辞

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(C)「英語破格構文の歴史的発達と談話基盤性について－構文化の時間的・空間的拡がり－」（研究代表：柴崎礼士郎、課題番号: 19K00693）の助成を受けたものである。

参考文献

- 程亜恒 Cheng, Ya-heng (2014) 「連詞“無論”語法化的機制与誘因」『長春師範学院学報(人文社会科学版)』 33:1, pp. 65-69.
- Higashiizumi, Yuko and Keiko Takahashi (2019) “The development and use of *mochiron* as a pragmatic marker in Japanese”. 日本認知言語学会第20回全国大会予稿集、関西学院大学、8月5日
- 工藤浩 (2016) 『副詞と文』 ひつじ書房
- Park, Ji-Yeon (2019) “Semantic change of the Chinese loanword *mwullon* in Korean”. 日本認知言語学会第20回全国大会予稿集予稿集、関西学院大学、8月5日
- Shibasaki, Reijirou (2018) “From the inside to the outside of the sentence: Forming a larger discourse unit with *jijitsu* ‘fact’ in Japanese”. In Sylvie Hancil, Tine Breban and José Vicente Lozano (eds.), *New Trends on Grammaticalization and Language Change*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 333-360.
- Shibasaki, Reijirou (2019a) “From nominal predicate to pragmatic markers in the history of

- Japanese: With special reference to East Asian languages”. Paper presented at International Conference on Trends in Linguistics (CTL), University of Rouen, 28–29 March.
- Shibasaki, Reijirou. (2019b) On the rise of *douride* ‘no wonder’ as a projector and the reformulation of discourse sequential relations in Japanese. In Shin Fukuda, Mary Shin Kim and Mee-Jeong Park (eds.), *Japanese/Korean Linguistics 25*. Stanford, CA: CSLI Publications, pp.383-395.
- 王春輝 Wang, Chunhui (2013) 「漢語的讓歩条件句」『語言科学』12:2, pp.130–142.
- 渡辺実 (1971)『国語構文論』塙書房
- 朱冰 (2019)「中国語における禁止表現から接続詞への変化」第3回 HiSoPra 研究会配布資料、学習院大学、3月28日
- Zhu, Bing and Kaoru Horie (2018) “The development of Chinese scalar additive coordinators derived from prohibitives : A constructionist perspective”, In Sylvie Hancil, Tine Breban and José Vicente Lozano (eds.), *New Trends in Grammaticalization and Language Change*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 361–380.

注釈書

- 青木和夫・稲岡耕二・笹山晴生・白藤禮幸(校注・訳)(1989・1990)『新日本古典文学大系 12・13 続日本紀 一・二』岩波書店
- 市古貞次(校注・訳)(1994)『新編日本古典文学全集 45 平家物語(1)』小学館
- 神田秀夫・安良岡康作・永積安明(校注・訳)(1995)『新編日本古典文学全集 45 方丈記・徒然草・正法眼蔵随聞記・歎異抄』小学館
- 小島孝之(校注・訳)(2001)『新編日本古典文学全集 52 沙石集』小学館
- 黒板伸夫・森田悌(編)(2003)『訳注日本史料 日本後紀』集英社
- 岡見正雄・赤松俊秀(校注)(1967)『日本古典文学大系 86 愚管抄』岩波書店
- 坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋(校注)(1965)『日本古典文学大系 68 日本書紀下』岩波書店
- 渡辺綱也(校注)(1966)『日本古典文学大系 85 沙石集』岩波書店

辞書・辞典

- 正宗敦夫(1965)(編)『伊呂波字類抄』風間書房
- 諸橋轡次(著)鎌田正・米山寅太郎(修訂増補)(2018)『大漢和辞典 デジタル版』大修館書店
- 新村出(編)(2018)『広辞苑 第七版』岩波書店
- 山田俊雄・山田勝美・西岡弘・都留春雄・尾崎雄二郎(編)(1991)『角川 大宇源』角川書店

関連 URL

- コーパス検索アプリケーション『中納言』 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- Japan Knowledge Lib <https://japanknowledge.com/library/>
- 『日本国語大辞典第二版』『デジタル大辞泉』『字通』『新選漢和辞典 web 版』
- 国文学研究資料館 岩波古典文学大系本文データベース <http://base1.nijl.ac.jp/~nkbthdb/>
- 国際日本文化研究センター 撰関期古記録データベース <http://db.nichibun.ac.jp/pc1/ja/category/heian-diaries.html>
- 日本文学電子図書館 六国史 <http://www.j-texts.com/sheet/rikkoku.html>
- 東京大学史料編纂所 古記録フルテキストデータベース <http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>
- Weblio 辞書 三省堂 大辞林 <https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdj>